

新日本歌人協会第57回 九州・山口近県集会在 熊本 実行委員新聞

2023年4月24日号



近県集會
サイトは
こちら

■「今こそ詠う、いのちとへいわ。」

津田道明氏 記念講演



人はなぜ詠うのか、「新しい戦争前夜」
ともいわれる今、自分を見つめ、
社会を見据え、
表現者として

三十一文字に託します。

九州・山口近県集會は新型コロナ感染の影響により、4年前の2019年を最後に対面での集會はかかいませんでした。しかし、新型コロナ感染状況も落ち着き、このたび一堂に会しての近県集會を再開できるはこびとなりました。今回は、記念講演として「今こそ詠う、いのちとへいわ」という根源的なテーマを新日本歌人協会副代表の津田道明氏にお話ししていただきます。

ロシアのウクライナ侵略戦争を機に、国内においても「新しい戦前」ともいわれる嘗ての翼賛体制の再現に対し、私たち歌人にとつて何が問われているのか、表現者とはなにか、文学としての短歌の修練を目指すとともに、新日本歌人協会の原点に立ち返り、歌作への大きな展望を発見できるのではないかと期待しています。

4月24日現在、まだ申込みが予定の半分に留まっています。みなさんぜひ、ご参加ください。

■ホテルの前は熊本城

宿泊先のアークホテル熊本城前は、その名の通り熊本城の目の前に建っています。チェックインを済ませたら、熊本城の見学や、お城の周りの坪井川の川沿いの散策など、熊本の度を満喫できるよう、熊本のスタッフ一同準備をしています。



朝食会場からの展望



参加申込締切を4月30日まで延長しました！宿泊参加の方2,000円の地域クーポンが付きます

お待ちしております、ぜひ熊本へ

コロナ禍によって九州・山口近県集會はなかなか開けませんでしたが、今年4年振りに熊本で開催することになりました。

熊本支部では、色々な短歌の大会などには積極的に応募し数名が入賞したりしていました。ところが、先輩の寺内さんが急逝されました。そして、それまでに多くのご指導を頂いていたのですが、呑気な私は色々なご指導を消化できずなかなか進歩のないままでした。

しかし一つだけ心に残る言葉があります。それは「歌謡曲みたいな短歌は良くないよ」という指摘です。それは、内容・意味は誰にでも良く分かる。だが使い古されたことばでの短歌は心に残らないと言っています。使い古されたことばを脱皮しなければならぬ。しかし、誰も使わない奇抜な用語を使えば良いと言わなくてもない。そのためには「風景を凝視すること」、また「社会を自分の目を通して深く観察すること」が必要でしょう。このように言葉で表現するのは簡単ですが、いざとなれば、やすやすとは短歌は生まれません。だから皆様のお歌を拝見させていた



実行委員長の神田武尚です

だけで大変嬉しい限りです。
熊本は福岡・大分・宮崎・鹿児島とは地続きであり、長崎とは「島原大変肥後迷惑」と言われたほどの近隣関係です。

今度の近県集會は熊本城のかたわらで歌会を開きます。槍の名手といわれた加藤清正は城造りの名人でもあり名古屋城を作り、さらに身命を掛けて熊本城を完成させました。その後熊本城が戦いの洗礼を受けたのは明治の西南の役の攻撃である。西郷軍の進軍は防備にたけたお城であることを証明しました。ところが七年前に九州では最大の震度七の震災に遭遇したのです。現在は天守閣の復旧はほぼ終わりましたが、崩れた城の石垣の並べ方を厳密に検証しつつ再興すると最終の完成は2052年というのです。その再興途中の熊本城を皆さんに是非見て頂きたいものです。

